

我がシニア生活の原点は戸山にあり

仲野慎一（S50）



会社を退職して丸4年が経過し、「シニア生活」もある種の安定感が出てきた今日この頃です。

今の生活に、大学卒業以来ずっと勤務した会社（住友信託銀行〔現・三井住友信託銀行〕とその関連会社）から多大な影響を受けているのは当然ですが、戸山高校での経験や卒業後の繋がりからも大きな影響を受けていると感じます。

たまたま、S34年卒の佐藤正弘さんは同じ会社の先輩でもあり（千葉支店で直接ご一緒したこともあり）、もちろん千葉城北会での先輩でもあったことから様々な教訓を陰に陽に頂戴し、ずっとお世話になってばかりです。

この会社と戸山高校の共通点は「同窓会が大変活発なこと」なのですが、今の私にとって大変幸運なことだったと実感しています。

現在の生活は、①週3日程度のパート（障がい者の一時預り施設での送迎運転手）、②複数の市民サークルや市民運動グループへの参加、③家事手伝い（夕食当番は、妻と二人で毎月シフトを組む）の3本柱で送っています。

千葉県との縁は、入社して2カ店目に勤務した津田沼支店が始まりで、その後暮らした船橋市の習志野台社宅、西船橋社宅での生活が、今の生活に結びついています。22年前に自宅を津田沼（最寄り駅は京成大久保）に建てたこともあり、生活①②③のほぼ全てを津田沼支店の担当エリア内で過ごしています。

そのうち②については、4年前の安保法制・強行採決がきっかけとなりました。曲がりなりにも大学で政治学・社会学を学んだ人間にもかかわらず、どうしてこんな政治状況・社会状況に至ったのか今一つ理解できないし、ましてや的確な説明や解説など出来ないことに「もどかしさ」を感じました。そこで、少しずつ地元の市民サークルや市民運動グループに参加する機会を増やしていきました。そこには団塊の世代以上の方々が多いものの、私のような定年前後の中高年のほか、若いママ達や学生なども参加していて様々な刺激を受けてきました。

そんな中で自分なりに試行錯誤してきたものの、先を見据えて継続して参画していくためには、自分自身の限られた能力・マイペースな性格・好み等を考慮しないと難しいだろうと再認識もしました。その結果、現在メインに参画しているのは地元の「習志野シニアク

ラブ」という会で、DVD 上映会と勉強会を概ね毎月各 1 回ずつのペースで仲間と実施しています。この 1 年ほどの間で私が進行役を務めたテーマは以下一覧の通りで、内容やレベルはせいぜい高校生程度ですが、そこはあまり気にせず「テーマや資料を準備して、皆で対話する」ことを重視してやっています。

日付	テーマと内容
7/22 (日)	<公開対話>「話そう！アメフト事件を若者と」：悪質タックル問題と今日の政治・社会状況を考える。第 1 部では習志野の強豪オビック・シガーズも参加
8/26 (日)	<公開対話>「君たちはどう生きるか」：2018 年上期の No.1 ベストセラー(250 万部：吉野源三郎著)で考える
9/22 (土)	<公開対話>「人口減少で生活はどう変わる？」：ベストセラー「未来の年表 2」(河合雅司著)で考える
10/27 (土)	<公開講座>「自分の戒名を自分で考えてみる」：島田裕巳著「戒名は自分で決める」を参考にして
11/24 (土)	<公開講座>「不死身の特攻兵、9 回生還の奇跡」：鴻上尚史氏の著書から
1/26 (土)	<公開対話>「幸せって何だっけ、その条件は？」：日本の「幸福度」はなんと 58 位で過去最低！
2/24 (日)	<公開対話>「人それぞれの平成、30 年の回顧」：一人ひとりが振り返る平成(個人的思い出から政治・経済・社会・文化・スポーツなど)
3/23 (土)	<公開講座>「大学生から学ぶ千葉での空襲」：空襲を研究した大学生から学ぶ機会！(東京成徳大学・空襲研究会の学生さんを招待)
4/27 (土)	<公開対話>「シニア同士で語る定年後のリアル」：「地縁」を持たない男性は孤立し易い。「中高年のひきこもり 61 万人」の報道から考える
6/2 (日)	<公開対話>「令和の初めに問う、天皇とは何か？」：代替わりに際して、日本の歴史・社会を考える上で必須の天皇制について対話します
6/22 (土)	<公開対話>「喜怒哀楽論で、日中米韓を考える」：国柄・事柄を喜怒哀楽論で対話(関口知宏著『「ことづくりの国」日本へ』を参考に)
8/4 (日)	<公開対話>喋り場！昭和・平成・令和のサザン：デビュー 41 周年のサザンオールスターズでお喋り(2018 年 10 月の文藝春秋のサザン特集を参考に)

この一覧を見て改めて感じたのが、その原点に戸山での経験・学びが多分あるんだなあ、ということです。戸山名物の「戸山祭」は、いわば「自主・自律・協働」の基盤をはぐくむ一大イベントですが、授業やクラブ活動にもそうしたポリシーが一部取り入れられていたように感じます。

例えば当時の現国の西原先生は、あるとき「今日は俺は見てるから、生徒同士で授業を進めるように」と言い放ち、窓際に座り込んでしまった。私は、「先生、二日酔いかなんかでサボりたいだけじゃないの?」と内心思ったのだが、いざ始まってみると授業の音頭をとる奴もいたりして何とかかなり、それなりに面白い授業になったのが印象深かったものです。

現実の社会では、「自ら課題やテーマを見つけ出し、考えて話し合い、協働して物事を進めること」が必要になるが、それを見越した教育でもあったのだろう。そうした教育が数十年後も生徒一人ひとりの中に生き続けて役立っているとすれば、これは本当に素晴らしいことだと改めて感謝の気持ちも湧いてくる今日この頃です。

もし、上記・習志野シニアクラブのテーマでご興味のあるものがありましたら、適宜出向かせて頂きますので気軽にお声がけ下さい。

(仲野の携帯電話：090-4613-9851)

千葉城北会会誌 第16号

令和元年(2019年)11月発行

発行 千葉城北会

会 長 岡田 光正 (S35)

副 会 長 於保 洋生 (S35)

副 会 長 白石治比古 (S41)

顧 問 尾崎 英二 (S31)

顧 問 齊藤 徳浩 (S32)

仲野 慎一 (S50)

後藤 公一 (S50)

事務局

270-0007 松戸市中金杉 1-193-3

白石 治比古 (S41)

電話 047-705-5938